

授業科目	健康生活支援学特論演習				
担当者	藤岡重和・辻 郁・田坂厚志・足立 一				(オムニバス)
実務経験者の概要					
学科名	保健医療学研究科	学 年	2年	総単位数	8単位
		開講時期	通年	選択・必修	選択

■ 内 容

(藤岡) 健康生活支援学特論(感染・疾病予防)で学んだ、健康に生活し要介護状態に陥らないための病気になる知識と方法論、つまり、感染予防、疾病予防の方法論を基盤に、社会に還元できる実践的技術を養うと共に、健康に生活していくための疾病予防、感染予防の具体的実践方法の模索を行う。内外の主要な文献や資料をもとに科学的根拠ある疾病予防、感染予防の方法論を演習するとともに、院内感染対策活動を実際に体験することで、社会で実践できる感染予防技術を培う。

(田坂) 健康の維持・増進や廃用症候群の予防・介入に関する国内外の論文を熟読し、「概論」「特論」で得た知識を基にして、研究論文を科学的に理解する能力を養う。そのために、健康の維持・増進や廃用症候群に対する評価方法やリハビリテーションの考え方について最新の知見を通して科学的に討議し、分析能力や批判的吟味の能力を現場で実践可能な能力へ発展させる。

(足立、辻) 特論の内容を基盤に、文献抄読、ディスカッション、アンケート調査を実施することで、リハビリテーションの視点に基づいた生活の質の向上に関する演習を行う。

■ 到達目標

(藤岡) 米国疾病予防管理センター、日本感染症学会の各種感染症対策ガイドラインを講読し、感染症予防の具体的実践方法を習得する。次に、種々の感染症例提示と討議、協力医療施設での症例検討、分析、感染対策活動を通して社会で実践できる感染予防技術を培う。

(田坂) 症例を通して、生活習慣病や廃用症候群のメカニズム及び予防のためのリハビリテーションについて科学的根拠に基づいて理解する。

(足立、辻) 関連論文の抄読とディスカッションの結果をレポートでまとめる。一連のアンケート調査を実施する。

■ 授業計画

- 第1回 米国疾病予防管理センター感染症対策ガイドライン講読 (藤岡重和)
- 第2回 日本感染症学会感染症対策ガイドライン講読 (藤岡重和)
- 第3回 感染症CPC文献抄読会：学生が選択した文献抄読 (藤岡重和)
- 第4回 模擬呼吸器感染症例提示、消化器感染症例提示、症例分析 (藤岡重和)
- 第5回 模擬尿路感染症例、皮膚感染症例提示、症例分析 (藤岡重和)
- 第6回 第6回～8回を病院演習第1日目午後半日で演習する。
協力医療施設における症例分析：症例Aの臨床経過、臨床検査結果を提示 (藤岡重和)
- 第7回 協力医療施設における症例分析：症例A検討会 (藤岡重和)
- 第8回 協力医療施設における症例分析：学生の疑問点を分析、感染予防方法を探求する (藤岡重和)
- 第9回 第9回、10回を病院演習第3日目午後半日で演習する。
担当教員監督のもと、院内感染対策活動に参加し、感染予防の具体的実践方法を学修する。
- 第10回 協力医療施設における院内感染対策活動参加 (藤岡重和)
担当教員監督のもと、院内感染対策活動に参加し、感染予防の具体的実践方法を学修する。
- 第11回 第11回、12回を病院演習第4日目午後半日で演習する。
協力医療施設の院内感染対策カンファレンス参加 (藤岡重和)
担当教員監督のもと、院内感染対策カンファレンスに参加し感染予防の具体的実践方法を学修する。

- 第12回 協力医療施設の院内感染対策カンファレンス参加（藤岡重和）
担当教員監督のもと、院内感染対策カンファレンスに参加し感染予防の具体的実践方法を学修する。
- 第13回 症例 A の分析発表、文献的考察、討議（藤岡重和）
- 第14回 症例 A の分析発表、文献的考察、討議からレポート作成・指導（藤岡重和）
- 第15回 感染対策活動等報告、レポート作成・指導（藤岡重和）
- 第16～17回 健康の維持・増進や廃用症候群に関する文献抄読とディスカッション（田坂厚志）
- 第18回 健康の維持・増進や廃用症候群の対策に関するレポート作成・指導（田坂厚志）
- 第19～20回 文献抄読とディスカッション（足立 一、辻 郁）
- 第21回 レポート作成・指導（足立 一、辻 郁）
- 第22～23回 文献抄読とディスカッション（足立 一、辻 郁）
- 第24回 レポート作成・指導（足立 一、辻 郁）
- 第25～27回 アンケート調査計画と実施（足立 一、辻 郁）
- 第28～30回 レポート作成・指導（足立 一、辻 郁）

■ 評価方法

（藤岡）各講義での課題レポート 40%（各回レポートを100%で評価しその平均の40%） 口頭試問 10%
（田坂、足立、辻）レポート 25% 口頭試問 25%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

終了した講義について復習をしっかりとして下さい。

■ 教科書

■ 参考図書

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって